



安心安全な小中学校の環境整備の拡充について  
「公明党」 中山 真由美

Q 猛暑の中、スポットクーラーが給食室に設置されていない小学校について、本来ならエアコンの設置を求めるところであるが、スポットクーラー設置を校長からの要望を取ってからの設置するのはなく、本市として安全安心な給食を提供するため、調理員の健康等にも

配慮し、全校にスポットクーラーを配置する考えについて、市長の見解を聞きたい。

A 【市長】引き続き学校の要望を踏まえ、衛生面や費用対効果等を含め、教育委員会において学校と調整するよう促していく。



名実ともに本気で子育て支援策への注力を  
「日本共産党」 川添 康大

Q 子育て環境づくりプロジェクトを推進してきたということだが、経常的な予算に係る施策ではなく、多くは予算を増やさずに実施できる施策が中心となっており、少子化に歯止めがかかるはずがない。

A 【市長】私自身、将来を担う子どもたちのために全力で取り組むたいという気持ちを持っている。

市長が何に取り組むか、その判断の一つでできる規模ではないかと考える

【その他の質問】  
◎原油価格・物価高騰対策について



市民に洪水・土砂災害のハザードマップの趣旨の周知を  
「創政会」 長嶋 一樹

Q 令和3年3月に洪水・土砂災害ハザードマップを作成し、全戸配布したが、市民の反応について聞きたい。

対する問い合わせが多く寄せられたが、今回「急傾斜地崩壊など新たな要素が加わったものの、冷静に受け止められている。一方で、拡大版を作成してほしいといった声や、専門的見地からの問い合わせを受けたら、また、児童の防災教育に利用され

A 【危機管理担当部長】ハザードマップを全戸配布したのは3度目であり、以前は区域指定自体

たりと、幅広く市民に防災への関心を高めてもらう契機になっている。

多く、そうした場でも有意義に利用されていると捉えている。

また、新たに市内に土地を購入される方や、不動産事業者からの照会も

◎本市の犯罪被害者支援施策について



抗加齢ドッグの推進について  
「いせはら未来会議」 安藤 玄一

Q 今後、本市において抗加齢ドッグ、アンチエイジング医学の推進を行政施策として盛り込む必要があると考えるが、見解を聞きたい。

A 【健康づくり担当部長】抗加齢ドッグ、アンチエイジング医学は健康維持のために有効な手段と捉える。

しかし、抗加齢ドッグ

◎腸内環境の重要性について



県道61号無電柱化第2期工区の優先順位について  
「創政会」 小沼 富夫

Q 県は、防災、安全・円滑な交通の確保、景観形成の3つの観点から無電柱化を推進してきたが、

滑らかなこと、プライオリティが低いものではないと考えている。

県道61号は緊急輸送道路ではないため、防災の観点は外れている。この要因で事業化が遅れていると推測しているが、見解を聞きたい。

本市としても、事業が円滑に進められるよう、引き続き関係者と調整を図るなど、当該事業が早期に完成されるよう努めていく。

A 【国県事業推進担当部長】

◎消防行政について

神奈川県無電柱化推進計画において、第2期工区については新規事業箇所として位置づけられ、計画期間中に新規事業化することを目標として掲



はたちのつどいは市内全中学校の卒業生による開催を  
「神奈川ネット」 土山 由美子

Q 市内には、市立4中学校と私立の自修館中等教育学校があるが、それ以外に伊勢原養護学校中学校がある。はたちのつどいは、市内全中学校の卒業生からなる実行委員会によって開催されることを提案するが、見解を聞きたい。

A 【子ども部長】現在、実行委員会を組織するに当たって、各中学校に対して卒業生の中から実行委員としての候補者を御推薦いただいている。ま

ずは当該学校に連絡をした上で協議を始めたかと考えている。

◎介護予防・日常生活支援総合事業の充実について

なお、恩師からのメッセージムービーやメッセージブックへの掲載等については、市内6つの全ての学校に対して、これまでも依頼しているが、多くの人の記憶に残るよう、引き続き各学校へ協力をお願いしていく。

A 【子ども部長】子育て支援センターは、子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため、身近で気軽に利用できる場所を提供するとともに、子育てについての相談や情報の提供などを行うことにより、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的としている。

市役所分室1階のフリ

【その他の質問】



子育て支援と人口増について  
「創政会」 館 大樹

Q 次期総合計画において、可能な限り人口減少を少なくする取り組みを推進していくというところだが、本気度を示すには子ども施策の充実が必要ではないかと考えるが、市長の見解を聞きたい。

A 【市長】全国の出生数が6年連続で過去最少を更新し、少子化に歯止めが利かない状況が国全体として続き、さらに、子どもの貧困やヤングケアラーなどが新たな課題として顕在化してきている。

これらの課題に総合的に取り組むため、本市では、未来につなげる子育て

他市の状況も勘案しながら、各分野、各施策の取り組みを進め、優先順位をつけて課題の解決に向けて取り組むことにより、子どもたちの笑顔あふれる魅力あるまちづくりを推進していく。



子育て支援センターの意義をどのように捉えているか  
「いせはら進誠会」 山田 昌紀

Q 子育て支援センターの意義をどのように捉えているのか、サテライト拠点として市内3か所につどいの広場を、また、デリバリー拠点として市内6か所に子育てひろばを開設している。

A 【子ども部長】子育て支援センターは、子育て中の親の孤独感や不安感の増大等に対応するため、身近で気軽に利用できる場所を提供するとともに、子育てについての相談や情報の提供などを行うことにより、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的としている。

少子化や核家族化の進行や、地域における人と人とのつながりの希薄化などにより、気軽に育児の相談をできる人が身近にいないというこの時代において、子育て支援センターは子育て中の家庭にとつて重要な役割を担っていると考えている。

【その他の質問】

◎健康づくり担当部長

健康無関心層と呼ばれる市民を事業参加につなげることは難しく、健康に関する情報を伝えるにいく状況でもあり、課題であると認識をしている。

また、市の事業へ参加し健康的な生活が意識できた方も、事業に参加したときの気持ちを維持す



本市の健康施策の現状について  
「創政会」 大山 学

Q 健康に高い意識を持つ市民に対してアプローチをし、関心のない層にいい影響を与えるような逆転の発想、展開が求められるのではないかと考えるが、見解を聞きたい。

A 【健康づくり担当部長】健康無関心層と呼ばれる市民を事業参加につなげることは難しく、健康に関する情報を伝えるにいく状況でもあり、課題であると認識をしている。

また、市の事業へ参加し健康的な生活が意識できた方も、事業に参加したときの気持ちを維持す

健康いせはらサポーターの会など、健康に関するボランティア活動の事業に加え、百歳体操サポーター養成講座を今年度も開催する予定であり、地域での自主活動による健康づくり支援をしていきたいと考えている。

